

(5) 海外事例調査

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、大規模国際大会におけるスポーツボランティア活動について、個人や団体の実態を明らかにすることによって、スポーツにおけるボランティア活動の担い手(個人や組織・団体)の要件を整理し、活動の活性化のための今後の方向性と「支えるスポーツ」の推進を図るための基礎資料とすることを目的とした。

1. 2 調査方法及び回収結果

(1) 調査方法

現地訪問によるヒアリング調査

(2) 調査対象

1) 団体調査

- ・ロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会(以下、LOCOG)スポーツボランティア担当
- ・グラスゴー2014 コモンウェルスゲームズ(Glasgow2014 XX Commonwealth Games)

2) 個人調査

- ・ロンドンオリンピック・パラリンピック(以下、ロンドン 2012)のスポーツボランティア実施者

(3) 調査内容

訪問コース : ①イギリス・ロンドン、②スコットランド・グラスゴー

調査員 : 山口泰雄(神戸大学)、工藤保子・松井くるみ(笹川スポーツ財団)、西川千春(現地通訳同行)

訪問先 : ①西川千春氏(ロンドン在住、経営コンサルタント、ロンドン 2012 通訳ボランティア)
②Phil Sherwood 氏(LOCOG ボランティアプログラム・人材トレーニング部門総責任者)
③グラスゴー2014 コモンウェルスゲームズ
④Rachel Waterman 氏(LOCOG において 12 の地方政府と地域の調整役(Nations and Regions Manager)として、ボランティアプログラムを担当)

訪問調査記録:

①西川千春氏

日時:2014 年 8 月 1 日 11:30~13:00

場所:ロンドン市内

内容:ロンドン 2012 でのスポーツボランティア経験

②Phil Sherwood 氏

日時:2014 年 8 月 1 日 13:30～14:30

場所:ロンドン市内

内容:ロンドン 2012 のスポーツボランティアの概要
ボランティアの役割とトレーニング
ボランティアの運営体制と運営上の工夫

③グラスゴー2014 コモンウェルスゲームズ

日時:2014 年 8 月 2 日 9:30～16:30、8 月 3 日 8:00～15:00

(大会会期 2014 年 7 月 23 日～8 月 3 日)

場所:グラスゴー市内

(Scotstoun Sports Campus、Scottish Exhibition + Conference Centre Precinct)

内容:卓球、スカッシュ、パラスポーツウエイトリフティング、自転車競技会場におけるボランティアの活動状況調査

④Rachel Waterman 氏

日時:2014 年 8 月 4 日 10:30～12:00

場所:スポーツイングランド (Sport England)

内容:ロンドン 2012 終了後のスポーツボランティアに関する取組
ロンドン 2012 を通じたスポーツボランティア推進政策への影響と課題

2. 調査結果

大規模国際大会におけるスポーツボランティア活動の実態を把握するため、ロンドンオリンピック・パラリンピック、グラスゴー2014 コモンウェルスゲームズを事例に、調査を行った。

ロンドンオリンピック・パラリンピック

2. 1 ロンドンオリンピック・パラリンピック（以下、ロンドン 2012）の概要

ロンドン 2012 は、夏季オリンピックとして第 30 回目の大会であり、ロンドンでは 1908 年、1948 年の大会に続き 3 度目の大会となった。オリンピックは 2012 年 7 月 27 日から 8 月 12 日まで開催され、204 の国と地域から約 10,500 人のアスリートが参加し、34 会場で 26 競技 302 種目が行われた。パラリンピックは 2012 年 8 月 29 日から 9 月 9 日まで開催され、164 の国と地域から 4,237 人のアスリートが参加し、19 会場で 20 競技 503 種目が行われた。

ロンドン 2012 は、オリンピック、パラリンピックが計画段階から同一の組織委員会を設けて大会が運営された初めての大会であった。また、パラリンピックの観戦チケットが完売したことや、「ゲームズメーカー」と呼ばれる 7 万人のボランティアが大会運営を支えたことなどが、人々から高い注目を集めた。

2. 2 ロンドン 2012 の主なボランティアの概要

図表 5-1 に、ロンドン 2012 のボランティアに関して、募集内容等の概要を示した。

図表 5-1 ロンドン 2012 のボランティアの概要

開催期間	2012年7月27日～8月12日(17日間)／2012年8月29日～9月9日(12日間)		
募集团体	ロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会	大ロンドン市 (Greater London Authority)	ロンドン2012セレモニー株式会社 (London 2012 Ceremonies Ltd.)
募集内容	オリンピック・パラリンピックボランティア	チームロンドンアンバサダー	セレモニーボランティア
名称	ゲームズメーカー (Games Maker)	ロンドンアンバサダー (London Ambassador)	—
募集方法	ウェブサイトのボランティアページから申請		
募集時期	2010年7月下旬	2010年7月下旬	2010年11月中旬
募集人数	70,000人	8,000人	500人
応募人数	242,000人	22,000人	—
年齢制限	2012年1月1日付で18歳以上	2012年1月1日付で16歳以上	2012年3月1日付で18歳以上 (申請時点で18歳未満の場合、 親の承諾が必要)
交通費	ロンドン市内の交通費は無料	ロンドン市内の交通費は無料	リハーサルやセレモニー当日の 会場への往復交通費は無料
食費	支給あり	軽食代として1日5ポンド支給	場合によって、支給あり
宿泊費	なし	なし	なし

2. 3 Phil Sherwood 氏ヒアリング結果

(1) Phil Sherwood 氏のプロフィール

- ・元陸軍大佐(2009年に退役)。20年以上、人事、オペレーションに関する業務に携わる。
- ・2009年3月よりロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会(以下、LOCOG)で、ボランティアプログラム及び人材トレーニング部門の総責任者を務める(2009年3月までボランティア部門の責任者は不在)。
- ・ロンドン2012終了後は、自身で起業し、組織戦略や政策づくりのコンサルタントとして活動している。



Phil Sherwood 氏

(2) ボランティアの役割

1) ゲームズメーカー (Games Maker)

- ・ロンドン2012では、ボランティアに「ゲームズメーカー」という名称を付けた。ボランティアがチームの一員と感じられるよう、ボランティアのアイデンティティを重視し、ボランティアがオリンピック・パラリンピックに何をもたらすのか、ボランティアがいなければ大会は成功しないとの議論から、ボランティアが、「実際にゲームを作る人である」という意味を含め、「ゲームズメーカー」との名称になった。
- ・採用に当たっては、オープンモデル(イギリス国内で労働する資格がある全ての者を採用の対象とする)とし、201か国から242,000人の応募があった。
- ・ゲームズメーカーとして活動するには、イギリスの永住権、イギリス国内での労働ビザ、若しくはヨーロッパ諸国のIDカード又はパスポートが必要であり、最終的には、ヨーロッパを中心に70,000人が採用された。
- ・ゲームズメーカーの中で、障害者の割合は4%で約2,800人であった(ゲームズメーカーのエントリーシートに「障害の有無」のチェック欄あり)。黒人や少数民族の割合は18%で約12,600人であった(日本人を含む)。

《主な応募条件》

- ①18歳以上
- ②イギリス永住者、労働ビザ所持者、若しくはヨーロッパ諸国のIDカードかパスポートがあること
- ③最低3回の大会前トレーニングに参加可能
- ④最低10日間の活動が可能 など

《採用プロセス》

2010年夏	ボランティアプログラム開始(募集開始)
2010年11月	選考開始
2011年1月-2012年2月	採用面接
2011年10月	採用結果の通知開始
2012年2月	オリエンテーショントレーニング
2012年3月	役割別トレーニング開始
2012年4月	ユニフォームと身分証明パスの配布開始
2012年6月	会場トレーニング開始

- ・ゲームズメーカーの役割は 83 職種 800 の役割にも及ぶ。最も人数が多いものは、イベントサービスと輸送交通であり、イベントサービスには 9,000 人、輸送交通には 3,000 人が従事した。
- ・ゲームズメーカーには、専門ボランティアと一般ボランティアの 2 種類がある。専門ボランティアは、特定のスキルや資格を必要としており、スペシャリストスポーツボランティア (Specialist Sport Volunteer, SSV) やメディカルボランティア (医療サービス) がこれに当たる。
- ・スペシャリストスポーツボランティアは、各競技の運営に関わるボランティアであり、募集・採用は、各競技団体が窓口となって行う。ただし、その競技のテストイベントへの参加が条件として挙げられている。
- ・メディカルボランティアは、医師や看護師などであり、1,300 人が活動した。人材の確保が不可欠であるため、一般ボランティアの募集の 6 か月前から募集を開始した。ドーピング検査にも携わり、馬のドーピング検査のための採血もボランティアが行っていた。

2) チームロンドンアンバサダー (Team London Ambassador)

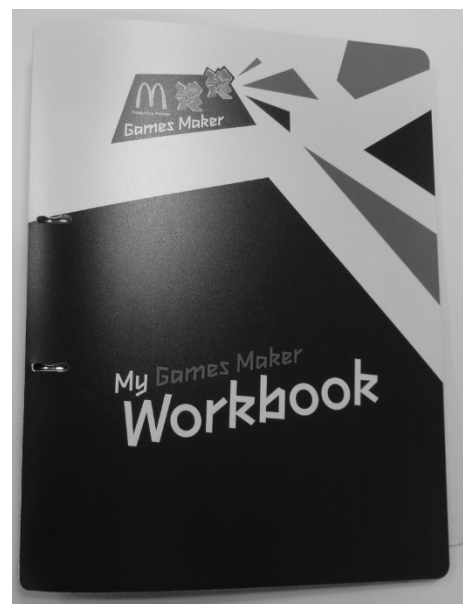
- ・大ロンドン市が募集し、8,000 人がロンドンアンバサダーとして活動した。
- ・若年層の参加を促すため、応募条件の年齢制限を 16 歳以上とした。
- ・ロンドン市内 35 か所の案内所や、オリンピック会場付近、駅、公園、空港などでの道案内を行った。

3) セレモニーボランティア (Ceremony Volunteer)

- ・ロンドン 2012 の開閉会式をプロデュースするために、LOCOG によって設立された 2012 ロンドンセレモニー株式会社が募集し、約 500 人が活動した。
- ・活動内容は、開会式や閉会式でのキャスティング、衣装、メイクアップなどであり、17 の役割があった。

(3) ボランティアのトレーニング

- ・延べ 150 万時間のトレーニングを実施し、大会期間中の活動は延べ 800 万時間にも及んだ。
- ・トレーニングは、オリエンテーショントレーニング、役割別トレーニング、会場トレーニングの三つであり、対面式トレーニングとオンライントレーニングによって実施された。トレーニングプログラムの内容はブリティッシュ・エアウェイズ (British Airways) やマクドナルド社などが考案し、LOCOG が実施した。ゲームズメーカーは、少なくともこれら三つのトレーニング (最低 15 時間) への参加が求められた。
- ・ボランティアリーダーは、リーダートレーニングを受講しなければならない。面接時に、指導的役割 (リーダーシップ) に興味があるかを尋ね、関心のある人をボランティアリーダーとして養成した。
- ・ゲームズメーカーとチームロンドンアンバサダーは異なる組織が主体となっているが、外から見れば全て「オリンピックボランティア」として見られるため、基本的なトレーニングプログラムを LOCOG が提供し、チームロンドンアンバサダーでも実施した。

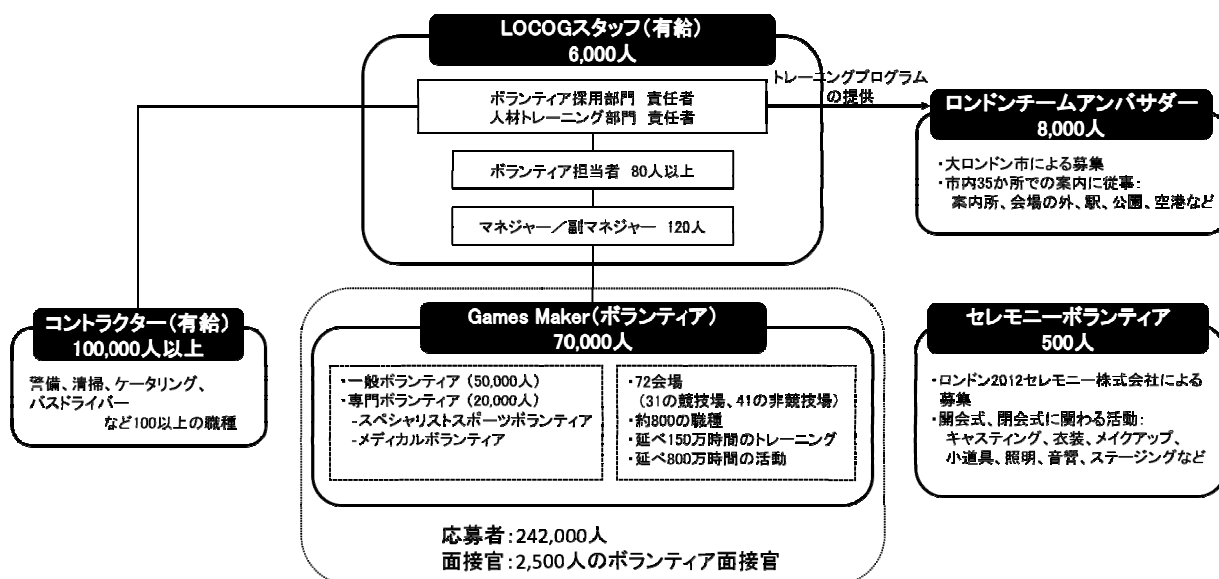


ゲームズメーカーのトレーニング資料

(4) ボランティアの運営体制図

ロンドン 2012 ボランティア運営体制図は図表 5-2 のとおりである。

図表 5-2 ロンドン 2012 ボランティア運営体制



(5) ボランティアの運営上の工夫

- ・ゲームズメーカーの募集から採用、トレーニングの開始まで約 1 年半の期間があるため、応募者のモチベーションを維持する必要がある、定期的に個人名入りのメールを配信するなど、コミュニケーションを取る方法を工夫した。
- ・不採用になった約 17 万人への配慮も重要と考えていた。最後まで誰が補充要員となり得るかを考えておく必要があり、オンラインのボランティアポータルを通じて情報提供し、関係を維持できるよう努めていた。また、フェイスブック(Facebook)やツイッター(Twitter)などのソーシャルメディアで情報が発信されることも考え、ロンドン 2012 に好印象を持ち続けてもらえるような配慮もした。
- ・コントラクターとゲームズメーカーの活動内容、役割は明確に線引きしている。例えば、体育館の床面の清掃は、クリーナーを使用する場合はコントラクターが、モップを掛ける場合はゲームズメーカーが行っていた。また、ゲームズメーカーへの指示は、LOCOG のマネジャーが行い、コントラクターからは指示をしないよう指揮系統も明確であった。
- ・オリンピックとパラリンピックのボランティアは、基本的には同じマネジメントで実施した(パラリンピックは専用のトレーニングあり)。

(6) その他の取組

- ・「ソチ・ロンドン・ソチ」プログラム

2014 年ソチオリンピック・パラリンピック(以下、ソチ 2014)に向けて、ボランティアの中核となる人材を育成するため、104 人のロシア人ボランティアが、ロンドン 2012 でゲームズメーカーとして活動した。104 人はロシア国内 26 大学から各 4 人が選ばれたが、他のゲームズメーカーと同じ採用プロセスを経て採用された。参加した 104 人は、ソチ 2014 の際にボランティアリーダーとして活動した。

2. 4 Rachel Waterman 氏ヒアリング結果

(1) Rachel Waterman 氏のプロフィール

- ・LOCOG において、イギリス 12 の地方政府 (Nations) と地域 (Regions) の調整役 (Nations and Regions Manager) として 4 年間勤務。主に聖火リレーや文化五輪、教育プログラムに関するボランティアプログラムを担当。
- ・大会終了後、スポーツイングランド^{※)} でボランティアに関する政策担当を務める (担当は一人)。ロンドン 2012 のレガシー (遺産) として、コミュニティスポーツ参加者の増加を目指し、スポーツボランティアを地域に根付かせるための活動を行っている。



Rachel Waterman 氏

※) スポーツイングランドは、文化・メディア・スポーツ省との契約関係の下で、イングランドにおける草の根スポーツの振興と、タレント育成のための「経路」の構築を目指している (笹川スポーツ財団, 2011)。

(2) ロンドン 2012 に向けての地方政府の取組

- ・4 つの地方政府 (イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド) ごとに、ロンドン 2012 に対する目標を立てて取り組んでいた。目標は以下のとおり。
 - イングランド: イギリスにおける有形のレガシーとして、参加者にとっても、観戦者にとっても、最高のオリンピック・パラリンピックの開催 (イングランドの 9 つの地域では、それぞれ異なる目標もあった)
 - スコットランド: 2014 年コモンウェルスゲームズ (グラスゴー 2014) のテストイベントとしての位置付け
 - ウェールズ: 大規模イベントの開催地として、ウェールズをどのように位置付けられるかに着目
 - 北アイルランド: 北アイルランドと 2013 年世界警察消防競技大会の知名度の向上
- ・ロンドン 2012 は、イギリスで行うオリンピック・パラリンピックであり、ボランティアもイギリス全土から集めるべきとの考えがあった。そのため、2011 年 10 月から各地域を回り PR 活動を実施した。イギリス全土からボランティアが集まったのは、この PR 活動によるところが大きい。

(3) ロンドン 2012 終了後のボランティア関連組織の体制

- ・LOCOG は、ゲームズメーカー、ゲームズメーカー応募者、観戦チケット購入希望者、文化五輪に関心を持っていた人など、約 520 万人の顧客データを管理していた。大会終了後は、スポーツイングランド、UK スポーツ (UK Sport)^{※1)}、ロンドンアンドパートナーズ (London & Partners)^{※2)} の 3 者でコンソーシアム (名称 Be Inspired) を組み、そのデータを引き継ぎ、管理している。

※1) UK スポーツは、非省庁公的機関であり、イギリスにおけるエリートスポーツ政策を担っている (笹川スポーツ財団, 2011)。

※2) ロンドンアンドパートナーズは、ロンドン市の公式なプロモーション会社であり、ロンドン市長と営利組合により設立された非営利の官民パートナーシップである (London & Partners, 2014)。

- ・このコンソーシアムの他に、内閣府からの助成金 (3 年間のみ受給、以後はプライベートファンドにて運営) により慈善団体であるジョインイン (Join In) を組織した。
- ・コンソーシアムとジョインインが協力し、「Be Inspired」というニュースレターを配信している。配信は、スポーツイングランドが中心となり実施しているが、その内容はジョインインが収集・提供している。主な内容は、スポーツボランティアの募集案内や募集しているスポーツクラブへのサポートなどで、イングランドの

みならず、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの情報も含まれている。各地域の情報収集については、地域に密着して活動するカウンティスポーツパートナーシップ (County Sport Partnership)^{※)}と協働して行っている。

※) イングランドの各県には、スポーツ政策に関係する諸組織のネットワークであるカウンティスポーツパートナーシップがある(笹川スポーツ財団, 2011)。

(4) ロンドン 2012 終了後のスポーツボランティアの活動と取組

1) 大会期間中：ボランティアの推進プログラム「ジョインイン (Join In)」

- ・オリンピック終了後からパラリンピック開催までの 2 週間で、「ジョインイン」というイベントを実施(慈善団体ジョインインの名称は、このイベントに由来)。イギリス各地のスポーツクラブに対して、地域コミュニティの一員として、クラブをオープンにするイベントの開催を依頼し、誰でもスポーツに参加できる場を提供した。その結果、パラリンピック終了後に、スポーツボランティア、スポーツの実施に興味を持つ人が増加した。

2) 大会終了後 1 年間：ボランティア啓発プログラム「スポーツメーカー (Sport Maker)」

- ・ボランティアの啓発プログラムとして、「スポーツメーカー (Sport Maker)」プログラムを 2012 年 9 月から 2013 年 9 月の 1 年間実施した。地域で何らかのスポーツに関わるボランティア活動を 10 時間実施し、その報告を受けるというプログラムであるが、延べ 48,000 人が参加した。活動の内容はどのようなものでもよく、「スポーツボランティア＝イベントのボランティア」ではなく、活動内容は多様であることを、プログラムの開始セミナーで説明し、地域のクラブや様々なスポーツ現場でのボランティア活動を啓発した。



スポーツメーカープログラムのバッジ

- ・「スポーツメーカー」プログラムで得られた延べ 48,000 人のデータは、カウンティスポーツパートナーシップが活用し、地域でのスポーツボランティア活動の推進を行っている。

(5) 今後のスポーツボランティア推進政策への課題

- ・大規模スポーツイベントのボランティアが、地域のスポーツイベントや、地域のマイナーなスポーツ団体やクラブなどで、ボランティアとして活動を継続するような工夫が必要である。そのためには、ボランティア活動を通じての技術の習得や人との出会いなど、ボランティアが何を求めているのかを知ることが重要である。
- ・イギリスでは、「マイクロボランティアリング (Micro Volunteering)」という造語があり、「時々、たまに、ボランティアを行う人」を意味する。マイクロボランティアが定期的にボランティア活動を実施するような仕掛けも必要である。
- ・これまで国が実施してきたボランティア推進事業を参考に、各地方政府で取組が実施できる体制を作ること課題である。

2. 5 ロンドン 2012 終了後のスポーツボランティアの実施状況

スポーツボランティアの実施状況に関する調査が、官民を問わず、ロンドン 2012 前後に多数実施された。その中でも、スポーツイングランドが毎年実施している Active People Survey (APS) の 2012/13 年調査 (APS7)[※]の結果を紹介する。この調査を基にまとめられた Volunteering Insight (2014) によると、過去 4 週間以内にスポーツボランティアを実施した割合は、2012/13 年調査では 12.0%であった(図表 5-3)。男女別に見ると、男性の実施率は 14.8%、女性が 9.2%であった(図表 5-4)。スポーツボランティア実施者の男女比は、男性が 61%、女性が 39%であったと報告されている。障害の有無によるスポーツボランティア実施率を見ると、病気・障害のある人の実施率は 2012/13 年調査で 9.2%であった(図表 5-5)。

この結果を見ると、ロンドン 2012 開催前は、ボランティアの実施率が僅かに高まったものの、終了後は減少している。今後、継続的なボランティア活動を促すため、更なる取組の展開が重要である。

※) APS は、イギリスの地方自治体ごとに最低 500 人をランダムに抽出し、電話によるヒアリング調査を実施している。APS 7 では 16 歳以上を対象者に、2012 年 10 月から 2013 年 10 月まで実施し、161,000 人の回答を得た。

図表 5-3 スポーツボランティア実施率

	2010/11調査 [N=166,000]	2011/12調査 [N=163,000]	2012/13調査 [N=161,000]
実施率	13.6%	14.0%	12.0%
実施人口(人)	5,800,000	6,030,000	5,200,000

図表 5-4 男女別スポーツボランティア実施率

		2010/11調査 [N=166,000]	2011/12調査 [N=163,000]	2012/13調査 [N=161,000]
男性	実施率	17.4%	17.7%	14.8%
	実施人口(人)	3,614,585	3,713,763	3,144,027
女性	実施率	10.0%	10.5%	9.2%
	実施人口(人)	2,190,112	2,317,031	2,059,593

図表 5-5 障害の有無別スポーツボランティア実施率

	2010/11調査 [N=166,000]	2011/12調査 [N=163,000]	2012/13調査 [N=161,000]
病気・障害のある人	10.4%	11.0%	9.2%
健常者	14.2%	14.6%	12.5%

出典: Volunteering Insight: Report for Sport England March 2014 (Manchester Metropolitan University)

2. 6 ロンドン 2012 ボランティア 通訳チームリーダー 西川千春氏ヒアリング結果

(1) 西川千春氏のプロフィール

1960 年東京都生まれ。大学卒業後、米国のビジネススクールにて国際経営学修士を取得。日系企業に入社後、1990 年よりロンドンに駐在。数社での勤務を経て、2005 年に経営コンサルタントとして独立。現在、目白大学外国語学部英米語学科で非常勤講師も務める。在英通算 24 年。



西川千春氏

(2) 活動のきっかけ

自身が住む街でオリンピック・パラリンピックが開催されることは、非常に珍しいことであるため、幼少時からスポーツが好きであったこともあり、スポーツボランティアとして参加することを決めた。

(3) 活動の内容

場所: 五つのアリーナを備えたロンドン東部のエクセル (ExCeL) 会場で活動した。会場では、卓球、レスリング、柔道、フェンシング、テコンドー、ボクシング、ウエイトリフティングの 7 競技が実施された。

役割: 主に、全 7 競技の試合後の選手インタビューや記者会見時の通訳を担当した。その他ドーピング検査時や急患対応などでも通訳を行った。また、通訳チームのリーダーも務め、通訳の配置や調整の役割も担った。

体制: エクセル会場の逐語通訳は 23 か国語で対応しており、LOCOG の有給スタッフであるマネジャー、副マネジャーの二人に対して、通訳ボランティアは 110~120 人が配置され、シフト制により常時 30~40 人が活動していた。



通訳チームのミーティング

(4) 活動の感想

オリンピック期間中は、自宅から活動場所まで自転車で通ったため、オリンピック一色となった街の雰囲気を感じることができた。また、通訳として活動したことから、白熱した会場の雰囲気や、選手の熱気を近くで感じ、オリンピックの興奮をじかに経験する毎日であった。

活動中は、日々、臨機応変な対応を求められるため、中堅層がリーダーシップを取り、予定外の事態に冷静に対応することが重要であった。当初は、状況に応じた人員配置が円滑に行われず、重要なインタビューをミスするなどの事態が発生した。その際、中堅層のボランティアがチームリーダー制を提案し、自発的に現場間で連携や調整を行ったことで、チームメンバーの能力を発揮させることができた。このように、各現場での判断、対応が求められる場面もあるため、リーダーシップや緊急時の対処を考慮した人材の確保が不可欠であると感じた。特に、通訳ボランティアなど、緊迫した場面に携わるボランティアは、その重要性を認識しつつ、活動することが求められる。

(5) 今後のボランティア実施希望

今後もスポーツボランティアとしての活動を続ける。ロンドン 2012 終了後は虚脱感にさいなまれたが、2014 年ソチオリンピックにも通訳として参加した。また、スポーツボランティアに関する情報を慈善団体であるジョインイン (Join In) などから定期的に取り得しており、2014 年 7 月には、英国ヨークシャー地方から出発したツール・ド・フランス第 3 ステージのロンドンにて、ボランティアとして活動した。引き続き、このような活動を行うとともに、スポーツボランティアに関する講演を行い、普及・促進に努める。



ソチオリンピックのボランティア仲間たちと

(6) 継続的なボランティア活動に向けて

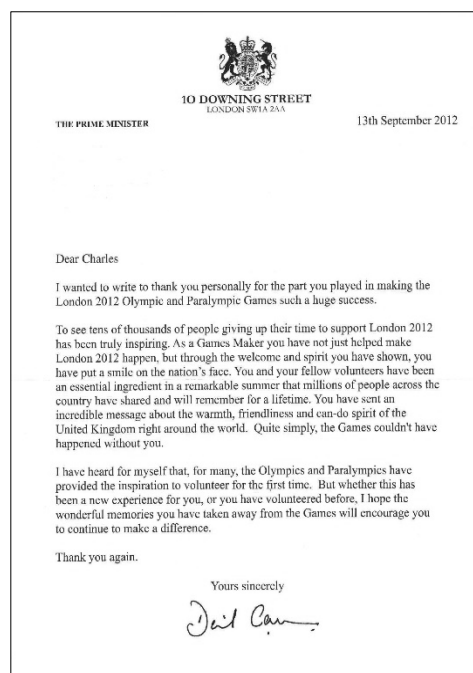
スポーツボランティアにとって、自身がその大会を開催する上で重要な役割を担っていると感じる事が大切である。ユニフォームや研修のワークブック、ボランティアの身分証明書などを支給されることで、大会や組織に対するコミットメントも高まる。ロンドンオリンピックでは、組織委員会から感謝状が贈られたり、チームグレートブリテン (Great Britain) の祝勝パレードにスポーツボランティアも参加したり、オリンピックを作り上げる一員であることを強く感じた。その経験が、継続的なスポーツボランティア活動に繋がっていくと感じている。



組織委員会からの感謝状



チームグレートブリテンの祝勝パレードに参加する
ゲームズメーカー



デービッド・キャメロン首相からの
感謝状

グラスゴー2014 コモンウェルスゲームズ

3. 1 コモンウェルスゲームズ (Commonwealth Games) の概要

コモンウェルスゲームズは、コモンウェルスゲームズ連盟が主催となり、4年に一度開催されている総合競技大会である。参加国は、英連邦に加盟する国や地域で、アフリカからアジア、太平洋諸島にまで及ぶ。1930年にカナダのハミルトンで第1回大会が開催された。

2002年のマンチェスター大会では、障害者アスリートが一部の種目に正式に参加し、マルチスポーツイベントとして発展した。その後、メルボルン大会、デリー大会、グラスゴー大会と、障害者アスリートが参加する競技・種目は増加しており、健常者、障害者の垣根なく大会が開催されている。2014年のグラスゴー大会(以下、グラスゴー2014)では、17競技が実施され、そのうち5競技22種目に障害者アスリートが参加していた。

また、2000年には、18歳以下も参加できるコモンウェルスユースゲームズ(Commonwealth Youth Games)の第1回大会が、スコットランドのエディンバラで開催された。2015年にはサモアで第5回大会が開催される。



パラスポーツパワーリフティング
競技の様子

3. 2 グラスゴー2014 のボランティアの概要

図表 5-6 に、グラスゴー2014 のボランティアに関して、募集内容等の概要を示した。

図表 5-6 グラスゴー2014 のボランティアの概要

開催期間	2014年7月23日～8月3日(17日間)			
募集団体	グラスゴー2014組織委員会			グラスゴーライフ (Glasgow Life)
募集内容	コモンウェルスゲームズ ボランティア	コモンウェルスゲームズ プレゲームボランティア	大会セレモニー ボランティア	ホストシティボランティア
名称	クライドサイダー (Clyde-siders)	フロントランナー (Frontrunners)	セレモニーボランティア キャストパフォーマー	N/A
募集方法	ウェブサイトから申請			
募集時期	2013年1月中旬	2012年10月	2014年1月下旬	N/A
募集人数	15,000人	300人	3,000人	1,200人
応募人数	50,811人	N/A	N/A	N/A
年齢制限	16歳以上	16歳以上	18歳以上	16歳以上
交通費	市内公共交通機関は無料	N/A	リハーサルやセレモニー 当日のグラスゴー中心地 から会場への往復交通費 は無料	大会期間中、会場までの 往復交通費は無料
食事	軽食の支給あり	N/A	菓子、食事などの支給あり	なし
宿泊費	なし	N/A	なし	なし

(1) クライドサイダー (Clyde-sider)

- ・グラスゴー2014 では、スポーツボランティアに「クライドサイダー」という名称を付け、12,500 人が活動した。
- ・イギリス国内外から 50,811 人の応募があり、2002 年のマンチェスター大会、2006 年のメルボルン大会の応募者数を超え、過去最多の応募となった。
- ・12,500 人のうち、6%の人はスコットランド在住者であった。また、38%の人は16歳から25歳の若い世代であった。クライドサイダーの年齢制限は、16歳以上であったため(ロンドン2012は18歳以上)、スポーツボランティアが若い世代へと広がったと考えられる。
- ・クライドサイダーの役割は、競技会場のテクノロジーサービスや、メディア対応、メディカル、アンチドーピングなど24職種あった。
- ・トレーニングは、役割別トレーニング、会場別トレーニング、e ラーニングの三つであり、クライドサイダーはこれらのトレーニングへの参加が求められた。ボランティアリーダーになる人は、これらに加えて、イベントリーダー研修を受講した。
- ・応募者の情報は、グラスゴー2014 のボランティアレガシーとして、ボランティアスコットランド (Volunteer Scotland) に提供されている(応募者の承諾済み)。



競技会場で案内をする
クライドサイダー

《採用プロセス》

2013 年 1 月-2 月	募集
2013 年 4 月-12 月	採用面接
2013 年 10 月-2014 年 7 月	採用結果の通知
2014 年 3 月-7 月	トレーニングの実施
2014 年 4 月-8 月	ユニフォーム、身分証明書配布



セキュリティゲートでの様子
※会場のセキュリティゲートでは、軍隊とセキュリティ会社がボディチェックを行う



自転車競技会場で活動するクライドサイダー



(2) 大会セレモニーボランティア (Ceremonies Volunteer Cast Performer)

- ・オープニングセレモニー、クロージングセレモニーのキャストメンバーであり、3,000 人以上が活動した。

(3) フロントランナー (Frontrunner)

- ・グラスゴー2014 開催前に活動するボランティアであり、300 人がフロントランナーとして活動した。
- ・フロントランナーの役割は、クライドサイダーの採用面接や、トレーニングプログラムの実施、クイーンズバトンリレーの実施など 10 職種であった。

(4) ホストシティボランティア (Host City Volunteer)

- ・大会中、クライドサイダー以外に、グラスゴーライフ (Glasgow Life)※)が採用したホストシティボランティアが活動していた。
※)グラスゴーライフは、カルチャーアンドスポーツグラスゴー (Culture and Sport Glasgow)によって運営されている団体であり、グラスゴーにおける文化やスポーツの振興を目的としている。
- ・ホストシティボランティアは、1,200 人おり、観光客の案内やコモンウェルスゲームズのプログラム内容、フェスティバル (Festival) 2014 の会場、文化活動に関する情報を提供していた。
- ・グラスゴーライフは、スポーツのみならず、美術館や文化イベントなど様々なボランティアを募集しており、ホストシティボランティアの中には、日常的にボランティアを実施している人もいる。



ホストシティボランティア

(5) その他

- ・大会終了後、グラスゴー2014 組織委員会がボランティアに対して証明書を発行し、習得した技術のリスト、他のボランティア情報、雇用や教育に関する情報を提供した。
- ・クライドサイダー、大会セレモニーボランティアのサポートを目的に、レガシー2014 ボランティアポット (Legacy 2014 Volunteering Pot)をビッグロツテリーファンド (Big Lottery Fund)の助成金により立ち上げた。スコットランド政府とグラスゴー2014 組織委員会が協力しており、ボランティア期間中の宿泊や仕事の休暇、育児などに関する情報を提供した (現在は終了)。
- ・スコットランドは、ロンドン 2012 をグラスゴー2014 のテストイベントとして位置づけ、参画していた。